

がんばるバイクショップの 情報マガジン

ヤマハニュース

Yamaha News



特集●東京モーターショー生録

お客様の期待々'96

ローナイスショップ●YOU SHOP SHODA

毎日が勝負のクリーン作戦

YAMAHA NEWS●インタビュー ⑩

BOON編集部

若者たちの「カッコよさ」とは..

1995 No.388

12
D E C

これは武者ぶるいか、それとも空冷Vツインが奏でる鼓動なのか。ドラッグスターにまたがってアクセルを握れば、はやる気持ちを抑えきれない。走り出したボクの前に、道はどこまでもまっすぐ伸びていた。

拝見！隣のお店このアイデア

ハローナイスショップ

YOU SHOP SHODA
神奈川県海老名市(庄田栄夫社長)



店頭をきれいに保つ、「グリーンアップ」の方法を考える

毎日が勝負のクリーン作戦

2週間に一度は替えられるプライスカード。カードの作成は「毎日少しずつ、仕事の合間を縫って。まとめて書く」と思っても、なかなか書ききれませんからとチエ子さん



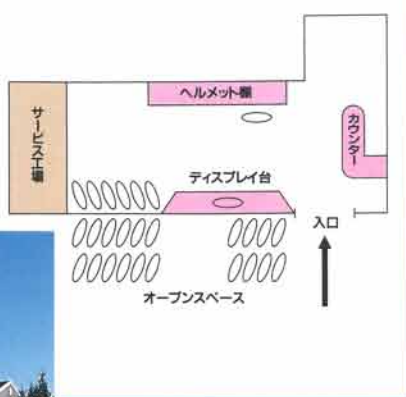
雑然としたイメージになりやすいバイクショップでは、「お店をきれいにさせる」工夫がさまざまに試みられている。もっともてつとり早いのは「掃除」だが、忙しい業務の合間を縫って「掃除」するというものなかなか大変なこと。ちよつとした作業でお店をきれいにさせる方法、いわば「ショップの鮮度維持」について、YOU SHOP SHODAさんのとっている方法をご紹介しよう。

人の出入りがある所には、汚れが集まる。ホコリ、チリ、タバコの煙と手指の汚れ、そしてバイクショップならではのオイル汚れ。きれいなショップ作りを目指すスタッフにとって、この「汚れる」掃除する「また汚れる……」のイタチごっこには頭を痛めている方も多いはずだ。ショップをきれいにさせ続けるためにはどうしたらいいのか。リニューアルから8年を経た今も「きれいなお店」としてお客さまを呼び込んでいるYOU SHOP SHODAさんをお訪ねした。

「毎日の仕事に追われているから、まとめて一度に掃除なんて到底無理ですよ。だから、コツコツと毎日できる範囲でやるしかない。ウチは鏡とガラスの面積が大きいんですが、これは手が空いたときに少しずつ拭いておく。毎日毎日、拭いた場所を広げていけば、数日でガラス面がきれいになるでしょう。これを2週間のローテーションで繰り返すんです」

YOU SHOP SHODA

神奈川県ほぼ中央、海老名市に立地する。周囲は丘陵に開かれた閑静な住宅街であるため、販売のほとんどはスクーター。客層は主婦・サラリーマンなどが中心層となっている。お店は昭和47年に創業、57年に現在の土地に移転。8年前にリニューアルを行ない、今年に入ってさらに外壁のみ改装を施した。



サービスカウンターには花が飾られ、展示車両にもちょっとした季節の演出を加える。こうした小さな心配りがお店を明るく見せる



庄田栄夫社長を筆頭に、奥さまのチエ子さん、そして息子の賢一さんとその奥さまの香奈子さんの3人が協力して支える「明るなお店」は、主婦のお客さまなどの高い支持を得ている



商談中には、お客さまの視線はカウンター裏にまで届いてしまうもの。そのため、雑然となりがちな資料類、用品などは商談カウンターの背後に設置された作りつけの棚に収納。すっきり整理することができた

「2週間ごとにプライスカードを新しくするというのはなかなか効果的ですね。プライスカードが汚れていると、展示車両も汚れて見える。逆にプライスカードがきれいだと、長いこと展示している車両も新鮮に見えるんです。さいいなことですが、店をきれいにさせるのに有効な方法ですよ」

それだけではない。チエ子さんの動きを追っていると、じつに自然に掃除の手が伸びている。ちよつと席を立つときに、雑巾を持ち、陳列棚を拭く。商品の配置を直す……。普段の気配りこそが、何よりお店をきれいに保ち続ける秘訣のようだ。

「明るくきれいな店というのは、お客さまへ『信頼』をアピールできます。もちろん、きれいな職場はスタッフにとっても働きやすい場でもあるんですよ」

YOU SHOP SHODAの信頼の店づくりは、今日もコツコツと進められている。

こう話すのは、庄田栄夫社長の奥さま、チエ子さん。自ら接客にあたる一方で、お店の掃除も引き受けている。ちなみにこの拭き掃除の際、チエ子さんはガラスクリナーを一切使わないとか。

「ガラス屋さんから聞いた話なんですが、『ガラス拭きに化学クリナーを使っていると、長年のうちにガラスはくすんでくる』そうなんです。ですからウチでは濡れ雑巾で拭いてそのあとすぐにカラ拭きする、この方法でやっています」

ガラスクリナーを使わない理由はもう一つ。それは掃除担当の奥さまの手が荒れるからだ。接客を担当するチエ子さんにとって、「見苦しい手でお客さまに接するのは失礼だと思っんです」

さて、毎日できる範囲できれいにしていって、そしてそれをローテーションで繰り返すという掃除方法は、鏡、ガラスにとどまらない。例えば、展示車両の清掃、そしてプライスカードの付け替えなどもそのうちのひとつ。

お客さまの期待！'96



各メーカーが考える今後のモータリゼーション像を、さまざまな出展車を通してお客さまに提案する「東京モーターショー」。そのなかで、今回ヤマハが発信したメッセージに対し、来場者はどのように受け止め、どのような期待を抱いたのだろうか？
ここでは、会場で拾ったナマの声をダイジェストにまとめてみた。
'96年のご商売を見渡すにあたって、ぜひご参考ください。

ゆとりの最新性能＋ クラシカルな外観 「ヤマハ、やったね」 という気分

助川泰徳さん
(26歳・歴5年・大型二輪)

今回のモーターショーのNo.1は、ロイヤルスターですね。理由？それはやっぱりデザインですよ。僕が今乗っている従来のアメリカンよりも断然アメリカン度が濃いですからね。

でも、細かい点を見ていくと、本場のアメリカンバイクとは一線を画した。ロイヤルスター独自の持ち味[※]が随所に見られる。例えば水冷V4エンジン。今まで自分がVツインにこだわっていたのはなんだったんだろうと思えるほどいい。

4気筒でマフラーが4本出ているでしょう。見た目に迫力があるし、4本マフラーはバイク右サイドから見ても左サイドから見てもどちらの側にもマフラーが伸びていてバランスもいいですし。

このロイヤルスター、ブレーキシステムもアメリカンにしてはすごく強力そうですね。バイクを通勤に使っている者としては、安全のための性能は特に気になります。最新の走行性能と交通事情に合わせた安全性能をクラシカルなスタイルでさりげなく包み込む。「ヤマハ、やったね」っていう気分ですよ。

ラフにキメるアメリカン ロイヤルスターが カッコイイ

樋口昭義さん
(24歳・歴8年・大型二輪)

いま乗っているのは外国製のアメリカンバイクなんです。このバイクは僕の憧れだったもの。もちろんこいつには満足しているんですけど、夢[※]を手に入れてしまったせいか、バイクの興味がちょっと違う方向に向きつつあるんですよ。アメリカンはアメリカンんだけど、「普段着のように接することができる」そんなバイクです。

そもそもアメリカンって、Gジャンをひっかけるように乗るのがカッコイイ。バリバリカッコ決めるんじゃない、ひよいとサンダルをつっかけるとか。大きいバイクを日常の中でサラッと使ってしまうなんていいじゃないですか。ところが僕のバイクだと、もうイメージができ上がってしまった。

その点ロイヤルスターなら、僕の思い描くライディングスタイルにぴったり。エンジンが水冷のV4なのも、新しい流れっぽくていい。全体のデザインも、クラシカルな中もしっかり現代のエッセンスが取り込まれている。ジャパニーズ・アメリカンの新しいカタチを感じます。日本のアメリカンもここまで来たか！というのが僕の正直な感想かな。



アメリカンらしい
雰囲気満点の色使い
「ドラッグスターに
まいいりました」

杉山敏雄さん

(52歳・歴34年・大型二輪)

今日はね、本当は四輪が目当てだったんです。ところがヤマハのブースに美しいアメリカンバイクが飾ってある。ドラッグスターっていうんですね。いや、一目見てまいいってしまいました。ショー会場をグルッと見てきたあと、帰る前にもう一度ドラッグスターを見たくて……また戻ってきたところなんです。

とにかく一番気に入ったのは、色。オレンジが実に映えていますよね。しかも所要所に配されたメッキが効果的に輝いている。やっぱりバイクは派手で目立つのが一番ですよ。アメリカンに乗るのなら、とことんアメリカの雰囲気に酔いたいんですから。「日本車の色使いもこなれてきたかな」って感じかな。

ショーモデルということで踏がれないのが残念だけど、このドラッグスターは

シート高も低そうでいい。私ら先輩のライダーは若い子ほどタツバ(身長)が多いから、このシート高はポイント高いですね。

雰囲気満点でその上、ライディングポジションが日本人の体格に合っている。ドラッグスターを見ていると久しぶりにバイクに乗りたくなってきましたよ。

ツーリング姿が
サマになる

ドラッグスターで
北海道を走りたい

中丸信二さん

(28歳・歴6年・中型二輪)

今、単気筒のスポーツバイクに乗っているんです。コイツで北海道をはじめ長距離のツーリングに出かけるのが僕のバイクライフ。そういう使い方からすると、やっぱり一度はアメリカンに乗ってみたいと思うんですよ。とくに、会場で見かけたドラッグスターに。

デザインもさることながら、僕がドラッグスターに魅かれたのはシャフトドラ



いよいよ主役の座へ?
ニューエイジ・アメリカン



イブを採用しているということ。チェー
ン駆動のバイクでは、長距離ツーリング
のときに何度が緩んで、調整をしなくて
はいけなかった。シャフトドライブなら緩
むことがないから、ツーリングでの不安
要素が一つ減るといことになりますよ
ね。ツーリングに連れていきたいアメリ
カンバイクなら、やっぱり「長距離」に観
点を置いたシャフトドライブの採用は歓
迎したいですね。本家の外国製アメリ
カンもチェーンドライブが少なくないし、
チェーンドライブにこだわる必要はありませ
んか。

前、横、後ろ
すべてが重厚
街の視線をつい想像
したくなります

柴垣としおさん

(24歳・歴5年・大型二輪)

ロイヤルスター、エンジンがいいじゃ
ないですか。ヤマハの水冷V4エンジン

といえはV MAXが思い浮かぶけど、
このロイヤルスターのエンジンもV M
AXの荒々しい迫力を引き継いでいる。
エンジンの重厚さで言えば、外国製アメ
リカンのエンジンにだって勝りますよ、
これは。水冷V4エンジンはヤマハの得
意分野になった感じがしますね。

エンジンがデカイロイヤルスターだけ
ど、タイヤもデカイ。いや、太いね、こ
のバイクは。太ければいいっていうもん
じゃないけど、街を走っているとやっぱ
注目度は高そうですね。前から見て、こ
の迫力。そして横から見ても重厚。さ
らにリアビューだって重々しい。どっか
らみてもロイヤルスターはいい意味でヘ
ビーなデザインを持っている。例えば僕
がこれに乗って街を流しているとしたま
しう。人々の視線が前、横、そして見返
る後ろ姿に注がれる。想像するだけでな
んか嬉しくなっちゃうバイクだね、この
ロイヤルスターは。



「大型」とらわれない
味のある単気筒、
2気筒の時代だ

井上康伸さん
(29歳・歴11年・大型二輪)

外車の1000ccに乗ってるんですけど、もう30歳近くになると、こういう味のあるバイクに長く乗りたくなるんですよ。流行に左右されず、飽きないものにね。ヤマハでいえば、SRとかセローとかがそうじゃない？ アメリカンだつてそのひとつかもしれないけど、今は流行りものくさくてイマイチ(笑)。

だから、今回のショーも注目したバイクはTRX850とかルネッサ。特にルネッサはいいですね、すてきオシャレで、あのイエローのカラーリングは、これまでの国産車にないものだし、造形もシンプル。センスのよさを感じるよね。

来年、大型免許が教習所で取れるようになるでしょ？ そうすると、誰もがドンドン大型車に乗り始めて、今までのステータス性が失われる反面、今度は単にデカイというだけではごまかされず、本当に自分が求めるのはどんなバイクかという原点に戻らなきゃいけない。

自分サイズのバイクって意味では、案外250や400に回帰したり、大型でも扱いやすくておもしろい単気筒や2気筒の時代が来るんじゃないですか？

ミツシヨン付き50ccに
ブームの予感
オトナも楽しめる
おもちゃだ！

石田佳之さん
(31歳・歴15年・大型二輪)

スムーズで乗りやすくて速くて、というバイクに飽きてきたし、V型エンジンのドコドコしたヤツに興味があるんです。今乗ってるのは、イタリア製のLツイン。でも、モーターショーで一番目を引いたのはヤマハのアメリカンでしたけど、あんまりそれにはこたわりがなくて、自分が満足して乗れるものならいい。

そういう視点で見れば、YB-1とか50ccのミツシヨン付きバイクがおもしろそうですね。もうすでに流行の兆しはあるようだけど、来年はもっと派手に流行りそうな気がします。中心は10代のSRやステイード予備軍でしょうが、オトナにとってもフルスケールのプラモデル感覚というか、オモチャのつもりでいろいろ楽しめそうだから。

YSRの時もそんな勢いがあったけど、ミニバイクレースにならちゃうと、オトナは入りにくかったでしょう。だけど、YB-1とかなら町乗りに使えりし、火がついたら長く続くと思います。

私ですか？ スクーター代わりに1台買おうかと考えてるんですが、20万円くらいで買えるのかな。

買うんだつたら
リッターオーバー
速さだけじゃないXJR
1200がイチオシ

小日向孝雄さん
(27歳・歴10年・大型二輪)

ずっとロードレースのファンで、今乗ってるのも750ccのレーサーレプリカ。だけど、そろそろスピード優先、速さ命って年でもないしさ、バイク自体の雰囲気っていうか味、走るおもしろさみたいなものが欲しいなとも思ってるんだよね。そうやって考えると、ネイキッドがいい。なかでもXJR1200が一番魅力的かな。その気になればガンと速くて、ゆっくり走っていてもサマになるスタイル。友達の話だと、取り回しもしやすくラクだし、性能的には何の不足も感じないっていうしね。

XJRは特別ニューモデルっていう扱

いじゃないけど、こういうバイクはあんまり新しいとか古いとか関係ないよね。正常に進化してくればそれでいいと思う。

カウル？ オレはいいと思うな。ただ、好き嫌いが分かれるから、ある・なしを選べればいいんじゃない？ そういう自由さっていうか、なんでもアリの気楽さがネイキッドの良さだと思うんだよ。

どんなドレスアップしようかとか、どんなカッコでキメようかとか。レーサー風、ツーリング仕様、ドノーマル。XJRならなんでも似合うよ。



雰囲気や味で根強い人気? ネイキッド&トラブディショナル

ジャンルにこだわりのないよ
走る楽しさが最優先!

田中博嗣さん

(21歳・歴5年・中型二輪)

今回目にしたのは、やっぱりドラッグスターとかロイヤルスターかな。あと、YB-1みたいな50ccもいいね、足代わりはずっと欲しかったから。

今乗ってるのは、250ccのレーサーレブリカだけど、特別ジャンルにこだわりのないんです。要は乗っておもしろいかどうか。その次がカッコ。見た目で気に入らないと、やっぱり買う気はしないよ。ただ、アメリカンは今乗るバイクじゃないと思う。60歳くらいになったら、革ジャンとサングラスでキメて、ゲートポールに行くのが夢(笑)。そういう意味でのスタイルにはこだわりのあるな。

次に買うとしたら? そろそろ限定解除に行こうと思ってるんですよ。教習所だとお金かかりそうだから、今のうちに。だから、今度乗るのは大型がいいですね。パトルスーツ着てレーサーレブリカに乗ってみたい気もするし、ツーリングに便利で速いっていうネイキッドもいい。うーん、迷うなあ。

スポーティなレーサー
ネイキッドが好き

引き締まった印象の
XJR400R II

渡辺雅彦さん

(22歳・歴3年・中型二輪)

今はK社のネイキッド400に乗ってるんですけど、実はずっとXJRが気になっていました。

今回見たXJR400R IIは特にカッコイイなあと思います。以前からホワイトのカラーリングが好きだったし、ミニカウルがつくと、ますます引き締まった感じがしていいですね。え、メーターがデジタルなんですか? スゴいなあ。

最近ではネイキッド・レースが盛んになってきたみたいで、まあ、僕はそこまでやろうとは思ってませんが、こういうネイキッド・レーサーっぽいスタイルは大好き。シートもスポーツ・ライディングを意識した形状に変わってるし、初めからブレンドのブレーキとオリーンスのリアサスが付いているから、手を入れるならまずマフラーかな。自分なりのイメージでドレスアップしたいですね。そんなこと言ったら、何だかすごく欲しくなってきたよ! アレっていくらぐらいになるんでしょうか?



コレってイマの感覚で
イける50

SRのイメージで

そのまま楽しめる

浜崎憲二さん

(18歳・歴1年・原付)

今日は4輪を見に来たついでに回ってきたんですが、ヤマハさんもホンダさんもレトロな50をしっかりと作って展示しているんで驚きました……まさかこんなバイクがメーカーから出るのかなあ? ちょっとワクワクするな。

僕も普段から、ビジネスバイクをカスタムして乗ってるんですよ。先輩や仲間にもSR派が多いので、自分もそうしたいレトロっぽいファッションでSRに乗りたいたいと思

っているんですが、今はまだ免許がないから50ccでガマン。でもレトロな実用車を自分なりにドレスアップするのって、やってみるとすごく楽しんだよね。いろんなパーツがたくさん出てるし。

YB-1って、よく見ると、パーツの取り付けとか自然な感じに仕上がってるでしょ。それとSR風のタンク・カラーとシートがいいよね。でも僕だったら、もっといろいろやりたい。コレに純正品のスポーツバイクの部品がそのまま流用できるといいな。

50ccには、今こういう遊べるバイクがないじゃないですか、みんなスクーターばかりで。だからビジネスバイクでも新鮮でカッコよく見えてくるし、SRの入門編みたいところがソッルんだよね。



潜在層はまだ多い？ スーパースポーツ&ミニエンター



二輪キャンプはブーム
じゃない！
だからこそ「提案」が
欲しかった……

坂上喜一郎さん

(29歳・歴8年・中型二輪)

今回のモーターショーで残念だったのは、各社オフロードモデルに新しい提案がなかったことですね。アウトドアブームが下火になっているからなのか、それとも他に理由があるのか私にはわかりませんが、いずれにしてもとてもさみしい印象を受けました。

四輪メーカーが相変わらずRVに力を入れているので、特にそう感じたのかもかもしれませんけど……。

ヤマハブースで一番興味を持ったのは、発電機を搭載した50ccバイク(GEAR)です。あれって確か業務用のモデルですよな？ あのパイクで遠出するのは難しいかもしれませんが、アイデアとしては非常に面白いと思います。まったく同じ機能(発電機、スポットライト等)がTW200あたりに装備されたら、これは買いです！ 無敵のキャンピングバイクになるでしょう。

今年の夏は信州をキャンプしながら回ったのですが、昨年にも増してにわかキ

ャンパーが増えていました。RVにたくさん荷物を積み込んで、ワイワイとキャンプ場に来るんです。でも二輪のキャンプ・ツーリングの場合は、一過性の流行りだけじゃないと思うんです。それだけにもうちょっと夢を見させてくれると良かったんじゃないかな、と感じるショーの内容でした。

ラクに走れて
所有感があつて
二輪ならではの解放感
があれば最高

横山好之さん

(41歳・歴22年・大型二輪)

マジエスティだっけ？ ヤマハのどっかいスクーターは……。俺も250ccのスクーターに乗ってるんだけど、ヤマハの方がデザインはカッコいいね。オジサン臭くないし、高級感もある。

いま乗ってるスクーターの使いみちは、ほぼ100%が通勤。それでも買ったばかりのころは、ツーリングにも行ってみたい。なんてことを考えてたんだ。実際はいまだに一度も行ったことないけど、でも、あれ(マジエスティ)なら休みの日にどこかに出かけてみようって気になるかもしれないな。

俺なんかの歳になると、もう速いとか



遅いとかは関係なくなっちゃうから、とにかくラクに走れて所有感のあるバイクがいい。それでいて、四輪にはない操縦感や解放感があれば最高なんだけどね。そういう意味でマジエスティは理想に近い。あれだったら何歳になっても乗ってられるだろうなあ、って思うよ。

さつき部品メーカーのブースを回ってきたんだけど、いまはドライブやツーリングを楽しくさせてくれるような機器がたくさんあるでしょ。カーナビとかオーディオとか、無線や自動車電話なんか。ああいうプラスαの機器を上手に使える、バイクはもつとおもしろくなるかもしれないね。ところでマジエスティについていくらすの？

「速いバイクが一番偉い!!」

これが僕の結論
なんです

川島啓一さん

(27歳・歴7年・大型二輪)

いままではいろんなカテゴリーのバイクを乗り継いできましたが、今度買うならリッターバイクのスーパースポーツがいいですね。例えばFZR250から始めて、250シングル、250トレッ

400ネイキッド、750ネイキッドと、本当にいろんなバイクを乗ってきました。でも、結局行き着いたところは「速いバイクが一番偉い」という結論なんです(笑)。

今回モーターショーに来たのも、スーパースポーツの品定めが目的です。来る前から雑誌を見てどんなモデルが並んでいるのか知ってはいたんですが、ぜひ自分の目で確かめないと。

ヤマハのYZF1000R(サンダーエース)ですか？ 思っていたより、大柄で丸っこい。っていうのが印象です。ただ、走らせれば相当速そうなマシンですから、早く雑誌のテスト記事を読みたいです。楽しみです。あとはカワサキのスーパースポーツも良かったですね。ちよっとレーサーっぽい雰囲気を出し過ぎている感じもしたけど、あれもきつと速いんでしょうね。

ともかくこのクラスは、国内4メーカーが競ってこそおもしろいと思うんです。全日本のスーパースポーツも盛り上がりつつあることだし、ぜひ頑張ってもらいたいですね。

「ヤマハらしい」
雰囲気のTRXは
好感度でナンバーワン!

鈴木直之さん

(26歳・歴8年・大型二輪)

去年、やっと限定解除に成功したんですが、大型バイクはまた持っていないんですけど、会場を歩いていると自然にビッグバイクばかりが目がいくんです。

今回のショーで一番興味を持ったのは、日社のシングルスポーツですね。ビッグシングルには以前から興味がありましたし、トラスフレームや斬新なサスペンションシステムにも魅かれるものがありました。僕は、ああいうちよつとへんなバイクが好きなんですよ。

ヤマハのブースでは、やっぱりTRX 850ですね。以前から気になるモデルではあったんですが、なかなか触れる機会がなくて……。今日初めてまたがって見たんですけども、思ったよりコン



パクトというか、ライトな感じがしましたね。「ヤマハらしい」バイクの一台なんじゃないでしょうか。

今年は各社アメリカンに力を入れているようですが、興味のない僕らにしてみれば、どのメーカーの展示車も似たようにしか見えないんです。逆にTRXなんかはメーカーの個性がよく見えて、好感を持つことができました。



レトロっぽいバイクは
オシヤレ!!
あれなら自分で乗って
もいいかな

岡部有里子さん

(19歳・歴なし・普通四輪)

モーターショーに来るのは初めてですが、クルマもバイクも「かわいい」って叫んじゃうようなのがたくさんあるんですね。いまはカレの後ろに乗せてもらっているんですけど、これなら免許を取って、自分でも乗りたいなと思えるバイクやスクーターが何台もありました。バイクの世界もなかなかオシヤレなんだなあ、と。

カレ? カレは全然オシヤレじゃない(笑)。本人は気にしているみたいだけど、バイクもあんまりカッコよくないし、汚いんです。できればオシヤレなバイクにオシヤレに乗って欲しいんですけどね。具体的なモデル? 私にはわかりませんが、小さくて、色がかわいくて、丸くて、ちよつと古っぽい感じのバイクがたくさんあったじゃないですか。クルマもそうですけど、レトロっぽいカタチをしているのはだいたいかわいいですね。あんなバイクに普段着で乗ったら、絶対オシヤレだと思いますよ。

株式会社祥伝社
月刊BOON
編集長
松原康智さん

ここ数年、毎年10万部ずつ発行部数を伸ばしている
男性ファッション雑誌がある。
それが中高校生を対象にした「BOON」だ。
その成功の秘訣は
従来と違った雑誌のコンセプトにあるという。
最近の若者の傾向、
そして若者にとってバイクとは……。
ちょっと気になるお話を松原康智編集長にお伺いした。



今の若い人たちが 「カッコイイ」と思っているもの……

平成元年にスタートした「BOON」ですが、おかげさまで、50万部にまで成長しました。1年で10万部ずつ伸びているファッション誌というのは現在そう多くないでしょう。マーケティングの難しさというのは我々も常に味わっていることなのですが、今の若い人たちの感性が、何かこう、「斜に構えている」という感じはしますね。昔の中高校生といえば、親と一緒にデパートかなんかに買物に行って、「○○ちゃん、このVネックセーター着なさい」など、与えられたものをそのまま着ていた。それが、精神的な成熟とともに、反発の



強さでもいっているのでしょうか、「お仕着せのスタイルは嫌だ」という主張が段々強くなってきている。これは何も日本だけの話ではなくて、世界的な傾向ですね。

で、「BOON」という雑誌は、ストリートから発するものを採り上げていますが、日本にもそういうファッションが来るだろうという読みがあったわけです。お仕着せのものではなくて、例えば古着なども含めて、自分の趣味でコーディネートをして、そのセンスを

競うという時代が来るとね。創刊当初というのはまだDC（デザイナー&キャラクター）ブランドの全盛期で、ストリートファッションに目を付けている雑誌というのはありませんでした。他誌ではDCブランドのプレスから借りてきたものを、きちんとコーディネートして、撮影が終わったらウヤウヤしくお返しに上がる……というスタンスでやっていたわけです。

そんな時代から「BOON」はむしろ街のショップとか、並行輸入屋さんとか、古着とか、スニーカーなどで言えば倉庫に眠っていたデッドストックとか、そんなものの特集ばかりやっていたわけですから、「この雑誌ほんとに売れるの？」と随分からかわれましたけれどね。しかし、このファッション誌のあり方を根本的に覆す我々の読みが今のところは当たっている。「BOON」が今日のブームをつくったわけではないのですが、時代背景の中で急速に伸びたと言えるんじゃないでしょうか。この雑誌は「次にこんなのが流行る」という流行提唱マガジンではなくて、どちらかといえば「流行流通マガジン」だと思いますよ。人より半歩先を行く最先端の人たちをつかまえて紹介する。そういう人たちのことを僕らは「カッコマン」と呼んでいるんですが、彼等が「今ならではのスタイル」「これが今カッコイイ」と思うものを、ヘアスタイルから爪先まで徹底的に追求して見せていく。カッコマンの動向には皆非常に注目していますね。その中には当然着るものだけでなく、スポーツや音楽なども含まれるわけで、「バイク」というアイテムも加わってきます。

「カッコイイ」という概念も大変抽象的なんですが、最近の傾向を一言でいうと、新製品というもののよりも、あえてひと昔くらいのお古くさいものを自分なりにアレンジしてコーディネート

インターネットする、というのはありますね。ただ過去にそのまま賛同するのではなく、そこには必ず自分なりの解釈が存在するわけです。バイクでいうなら、数年前から多くなっているネイキッドタイプのバイクや、アメリカンにそんな気配を感じます。ただ目新しさだけを鵜呑みにして追いかけるのはダメなんです。そうではなくて、例えば極端な話「そば屋の兄ちゃん」が乗っていたような、ちょっと前までは「ダサイ」といわれていた50ccに乗ることによって、自分は「カッコイイんだ」という主張を藪殴みに考え始めている。

バイクだけに限らずスニーカーや時計などをみても、「ダサイ」ものが「カッコイイ」という逆転現象までいつてしまっていると思います。じゃあ具体的に何年のどれが「ダサイ」もので、何が「カッコイイ」ものなのかその境界線はどこにあるのかとなると、実は我々にもよくわからないんです。そこらへんは彼等の動向を見ることによって、勉強させてもらっているという感じです。ただ、ひとつ言えるのはやっぱり広告などのメディアに踊らされたくない、「自分」が不在で踊らされているだけの人たちはカッコわるいという価値観が相当根深くあるようです。

じゃあ、逆転現象まで行き着いたファッションはこの先どうなるのか。おそらく、また新しいものに対する感覚が蘇ってくると思います。ただ、その根底にある「こだわり」を求め姿勢というのは、崩れないでしょう。

BOONはこんな風にライブ感溢れる雑誌ですから、ストリートにいる最先端の1万人を追いかけることで、逆に50万人が買うという非常に面白い現象になっています。これからもストリートとともに色が変わったり、雰囲気も変わっていきそうですよ。

PIT IN

From AD

12月のヤマハ提供番組

■オリジナルコンサート

私たちの創った世界

放映：テレビ朝日系列全国ネット・毎週日曜日7時30分～8時00分

■「ラジオ」ぼっぴん王国

ミュージックスタジアム

放送：ニッポン放送ほか16局ネット

提供日：毎週月曜日、火曜日

From SERVICE

お客さま満足度を高めよう！ 『CS研修会』&『整備士講習会』

お客さまに気持ちよく来店していただくための接客ノウハウを身につける「CS研修会」が、今回も12月・東京会場を皮切りに全国12会場で開催されます。

今回は、95年初めに行なった研修をベースに、より二輪業界の実態に則したカタチで内容を改編。翌日からさっそく店頭で役に立つ、実践的な講習が受けられます。

お客さま満足度を高めるうえで、サービス技術を磨く「ヤマハ二輪車整備士講習会」と併せて、ぜひ積極的にご利用ください。

■'96CS研修会

地区	会場	日程
北海道	札幌	1月17日
東北	仙台	2月16日
東京①	東京	12月12日
東京②	春日部	12月13日
東京③	神奈川	12月14日
中部①	名古屋	12月14日
中部②	静岡	2月15日
関西①	大阪	1月18日
関西②	神戸	1月19日
中国	岡山	2月22日
中国	岡山	2月22日
九州	福岡	2月23日
九州	福岡	2月16日

※時間は各会場とも10時～17時。※参加申込み方法など、詳しくはヤマハの各担当営業所までおたずねください。

■YTSヤマハ二輪車整備士講習会

	12月	1月
北海道		
東北	B	
東京	B M 5~7	M 23~25
中部	M 13~15	B
関西		
中国		
中国	B	
九州		M 5~7

※B/ベイスニック M/マスター D/ドクター ※都合により開催変更および中止となる場合があります。また、日程のないものなど、詳しくはヤマハの各担当営業所へお問合わせください。

NEW ZR SUPER JUG

速さのスタイルを 磨きぬいた...

NEWスーパージョグZR誕生!

YAMAHA

NEW ZR SUPER JUG

誕生!!

YAMAHA

店頭用のぼり

店頭告知ポスター

From SALES

96商戦はもう始まっています！ 『JOG-ZRキャンペーン』で 10代ユーザーをしっかりとキャッチ

流行のシルバーをはじめ、若者の心をとらえるニューカラーで新登場した'96「スーパーJOG-ZR」。来春の最需期を前に、'96商戦は早くもここからスタートを切ったわけです。

そこでヤマハでは、メインターゲットとなる10代の男の子たちに向けてZRを強力にプッシュする、プレミアムキャンペーンを展開します。

プレミアムアイテムは、ストリートファッション、ストリートスポーツ大好きな若者たちがこの冬も注目を集める「コスミックサーフ」ブランドのオリジナルスノーボードジャケット。話題性の高さは折り紙付きです。

また、このキャンペーンをより広く認知させるために、ポスターなどの店頭ツールやマンガ雑誌広告等でバックアップします。

ぜひ、みなさまの店頭でも積極的なアピールを行なって、より多くの成果を獲得ください。

Marlboro Castrol

Racing the Spirit

「MCカレンダー」
「Racing the YAMAHA Spirit」

Sea Spray 1996

Knots

「MCカレンダー」
「Sea Spray 1996」

お客さま満足度向上をめざし 全国35名の販売店代表者が腕を競った 『95ヤマハ整備士コンテスト全国大会』

日しろお店で腕をふるっている整備士のみなさんが一堂に会し、その接客技術や整備技術を競い合う『95ヤマハ整備士コンテスト』全国大会が、11月8日、静岡県ヤマハリゾートつまつま窓で開催されました。

このコンテストは、お客さまにより高い満足を提供していくため、整備士どうしでお互いに切磋琢磨していただくことと始まった『ヤマハスタートーナメント』を、6年目の今年から『ヤマハ整備士コンテスト』



ベシック優勝の森田さんは、大会2度目のチャレンジで初の全国大会出場、初優勝。「実技は難しかったが、接客がうまくやれたと思う。普段の力を十分出せたのが良かった」



マスター優勝の南さんは、「制限時間内に整備を終わらなければいけないのがつらかった。テレビの『料理の鉄人』出場者の気持ちがかわかった。息子の1歳の誕生日にいい土産ができた」

と名称を変えて実施したものです。

今回は、10月に全国30会場で開催された350名の参加者の中から選ばれた35名が出場。ベシックとマスターの2クラスに分かれ、接客や整備の実践的な技術とノウハウ、学科試験による知識の確かさを競い合いました。

そのなかで、ベシッククラスは神奈川県『YSP南川崎』森田英典さん、マスタークラスでは埼玉県『YOU SHOP』



すばやく、正確な作業が試される実技



各地区から選ばれた販売店代表整備士のみなさん。このなかで、優勝をのぞく上位の成績は次のとおり。[ベシック] 準優勝/小久保伸一さん・YOU SHOP KANDA秋月店、3位/津島慶介さん・南オンアンドオフ タカマツ [マスター] 準優勝/柴田勝さん・モトショップ シバタ、3位/高橋卓也さん・YSP福生東



正しい基礎知識と応用力が学科で試される。学生時代と同じ緊張感が漂う



技術サービスと並んで重要度の高い接客は、ふたりの採点者が細かくチェック

「ミニ」南博文さんが見事優勝。今年のナンバーワン整備士の栄光を手に入れました。これからもその優れた能力を磨き、さらに信頼されるお店づくりに役立ててほしいものです。

from SNOWMOBIL

スノーモビルで 遊ぶなら情報満載の 『ランドガイド』が便利

ウィンタースポーツシーズンがやってきました。日しろはバイクを離さない人たちも、雪の季節ばかりはスキーやスノーモビルに目が向いてしまいますね。

そんな時、一冊あると大変便利なのがこれ『スノーモビルランドガイド'96』。ヤマハが提携するスノーモビルランドをはじめ全国68カ所の施設について、アクセスルートから利用期間、営業内容、料金、コースの種類、YES特典の有無まで、あらゆる情報が網羅されています。

もちろん、データは今シーズン用に改訂された最新版。オーナー車持ち込み、レンタルを問わず、スノーモビルで遊びたい人は必携の本です。

また、シーズン中は『YESホットライン』(☎0120-319181)でもスノーモビル情報サービスを行っています。お客さまを誘ってのイベント立案などに、ぜひお役立てください。



『ギア』『TRX850』など5モデルが グッド・デザイン賞を受賞!

YAMAHA TOPICS

『Gマーク』でおなじみの「通産省グッド・デザイン賞」受賞式が9月29日に行なわれ、輸送機器部門賞ではヤマハから『ギア』『TRX850』の2モデルと、マリッジジェット『MJ700RA』、モーターボート『SRV-20』、クルージングヨット『FEESTA-31』の5商品が選ばれました。

グッド・デザイン賞は、その年に販売された数々の商品から外観や機能、品質、価格などを審査したうえで、さらにオリジナリティが高く、機能やデザイン的に優れたものを通産大臣が選定するものです。

39回目を迎えた今回は、846社から2566点の申請があり、409社880点に授与されました。二輪車としては、ほかにホンダのディオ・チェスタ、スズキのバンドエイト250、カワサキのGPZ1100が選ばれています。

消費者の商品選びを助ける目的で設けられたグッド・デザイン賞。二輪車ではヤマハの2モデルを含む5車種に授与された



PIT IN

YAMAHA TOPICS

カート界の頂点をきわめる2大会 秋の琵琶湖とつま恋で熱戦を展開

今年で19年の歴史を持つカートレースのビッグイベント『第19回ジャパンカートグランプリ』（主催/ヤマハリゾートつま恋、特別協賛/ヤマハ発動機）が、11月10日〜12日の3日間、静岡県・つま恋国際カートコースで開かれました。

今回は、事情により海外選手の出場が果たせなかったものの、グランプリクラスに52名、SL全国大会など7クラスに146名のドライバーが参加。すばらしい秋晴れのもと、95チャンピオンのタイトルをめぐる各クラス白熱のバトルを展開しました。

なかでも、フォーミュラスーパーA（FSA）というトップカテゴリのマシンで争われるグランプリは、ヤマハワークスの

樋口信之、李好彦など全日本選手権レベルの強豪がしのぎを削り合う大接戦となり、決勝で16歳の五十嵐を振りきった31歳のベテラン津田浩次が初優勝を飾りました。

また、昨今はモトクロス用エンジンをベイスにした6速ミッション付きカートのレースも人気を博しており、ヤマハが統括するSLシリーズで125ccと80ccの2クラスを開催していますが、そのチャンピオンを決める『第1回アブラススーパーカート全国大会』（主催/ヤマハ発動機、琵琶湖スポーツランド）も10月22日、滋賀県・琵琶湖スポーツランドで開催されました。

これには、全国から3クラスで1119名のカーターが参加。さらには、高木虎之介



スーパーカート全国大会で、オールスター選手をしのぐタイムを連発した80ccクラス優勝の岩井祥吾選手（12歳）は、「当然です/絶対負けるモンかという気でがんばった」と胸を張る

や金石勝智などF3000やF3といったカテゴリで活躍中の有名選手をまじえたオールスターレースも行なって、にぎやかな盛り上がりを見せていました。



JKGには、カート出身のF1ドライバー鈴木亜久里選手も来場し、SLチャンピオンたちに「亜久里カップ」を贈呈。この次からはゲストでなく選手としてみなさんと一緒に走ります。よろしく」と挨拶した

『パス』シリーズや『JW1』に熱い注目 国際自転車展&国際福祉機器展

東京モーターショーの開幕直前、ヤマハは東京・晴海国際見本市会場で行なわれた『95東京国際自転車展』と『第22回国際保健福祉機器展』にも出展。PASなどヤマハ独自の技術を駆使した画期的商品に、熱い注目が集まりました。

これらのショーは10月24日から26日までの3日間、同時に開催され、それぞれ約10万人が来場。

自転車展では、館内のブースに参考出品の『パスSWING』や『パスエアロスポート』『パスコンパクト』、新発売の『パスタイプC26』など7種類を展示し、連日多数の自転車愛好者や販売店関係者が賑いました。

また、屋外にも参考出品の『パスコンパクト』ほか現行モデルが体験試乗できるコーナーを設け、順番待ちができるほどの大盛況となりました。一方、高齢者や身体障害者の自立生活支援、介護者支援に役立つ機器を展示する福祉機器展には、車椅子用電動ユニット『JW1』を展示。試乗コーナーと合わせ、熱心な来場者に囲まれました。

RACING TOPICS

全日本RR 宇井は、チャンピオン獲得! 難波はランキング3位に

11月12日、全日本ロードレース選手権最終戦が鈴鹿サーキットで行われ、全10戦の長きに渡ったシーズンが幕を閉じました。

そのなかで125ccクラスの宇井陽一が見事チャンピオンに輝き、茨木繁がランキング3位を獲得しています。

宇井がタイトルを決定したのは第9戦・SUGO大会。これまでに3回の優勝を奪



国際自転車展で、もっとも注目度の高かったヤマハ「パス」ブース

国際ソロプチミストが横浜市へ 緊急車用に『パス』19台を寄贈

職業を持つ女性の国際的な団体『国際ソロプチミスト・横浜東』より、横浜市に、『パス』19台が寄贈されることになり、10月25日、その贈呈式が横浜市役所で行なわれました。

国際ソロプチミストは女性の地位向上をめざし、社会奉仕や国際理解への貢献などさまざまな活動を行なっている団体で、その横浜東クラブが創立10周年を迎えることから、10周年にふさわしい活動として阪神大震災のような災害時に緊急車両を贈ろうと発案。今回実現の運びとなりました。

同クラブ会長の紀村まちなちさんから目録を手渡された横浜市の高木市長は、「大規模な災害に遭遇した場合、パスのような自転車は大変有効な交通手段であり、また市民との密接なコミュニケーション確保にも欠かせない存在となるでしょう」と感謝のこたえを述べました。



寄贈されたパスは、1台が横浜市役所広報課、残る18台は各役所に1台ずつ配置されている



YSPメンバーズクラブがサポートした宇井選手は、全日本125cc 2年目でチャンピオンを獲得

TBCCビッグロードレース開催 500ccマシンが久しぶりSUZUKOで大バトル!

全日本選手権第9戦MFJグランプリに併催して行われたTBCCビッグロードレースは、ヤマハ、ホンダ、スズキ、カジバの9台が出走し、2年ぶりの500ccレースとして注目を集めました。

GP500クラスチャンピオンのM・ドゥーハン(ホンダ)をはじめ、阿部典史(ヤマハ)、伊藤真一(ホンダ)、岡田忠之(ホンダ)ら、シーズンを戦い終えたGPライダーたちが大挙出場したこのレースは、岡田の好スタートで始まり、以下、伊藤、ドゥーハン、阿部、本間利彦(ヤマハ)と続き、トップ集団を形成してレースをリードします。

しかし10周目頃から本間がやや離され、また終盤に入って阿部が遅れてそれぞれ単独走行となると、トップ争いは伊藤、ドゥーハン、岡田の3台に絞られました。そしてラスト2周となった19周目、ついにトップを奪ったドゥーハンがそのまま逃げ切つて優勝。

阿部は終盤まで30秒台をキープしてトップ



プグループを追い抜きましたが、伊藤、岡田に続いて4位。本間も5位となりました。
#17阿部は序盤、ドゥーハンに食らいついて好バトルを展開。本間もその後方に続く。

げてランキングトップを快走してきた手井は、雨が上がり路面が少しずつつ乾き始める難しいコンディションのなか、好スタートを切つてトップに立ちます。しかしフロントタイヤにレインを選択したことで徐々に後退し、11位でフィニッシュしました。
ところがランキング2位の東雅雄(ホンダ)も1周目に転倒。この結果、最終戦を待たずに宇井のチャンピオンが決定しました。
また250ccクラスでは、難波恭司が最終戦をランキングトップのまま迎えますが、14周目の第2コーナーで痛恨の転倒。すぐにマシンを起こして再スタートしましたがポイント圏内には届かず、ランキング3位。
スーパーバイククラス最終戦は100マイル・28周で競われ、吉川和多留が終盤の猛追撃で3位、藤原義彦は6位を獲得して、ランキング4位、5位を獲得しています。

全日本TR

全日本トリアル選手権シリーズ終了! クトウリエはランキング4位を獲得!

全日本トリアル選手権は、5月7日の日本グランプリ大会で開幕。10月29日の九州大会で全7戦を修了。93年度チャンピオンのP・クトウリエはトータル94ポイントを挙げ、ランキング4位となりました。



全戦、着実なポイントゲッターでランキング4位を獲得したクトウリエ選手

第23回日本GPトリアル大会、で幕を開けた今シーズンは、クトウリエはこの緒戦で総合3位を獲得。さらに続く第2戦・東北大会の総合4位でランキング3位につけました。

その後、レース・スケジュールが約2か月半の長いインターバルに入る間に世界選手権出場を果たしたクトウリエは、続く第3戦・北海道大会で、よりアグレッシブなトライを披露。第1戦に続き2度目の総合3位を獲得しました。そして第4戦、総合5位、第5戦3位、第6戦4位と健闘し、着実にポイントを重ねます。

ところが最終戦、腰の怪我を押し出場でしたものの総合7位に終わり、逆転3位はなりません。

なお、チャンピオンはトータル126ポイントを挙げた藤波貴久(ベータ)が、史上最年少15歳で獲得しています。

F1 GP

サロ2戦連続入賞でシーズン終了 コンストラクターズランクは9位

'95年のF1グランプリは、岡山・T・サーキットから三重・鈴鹿サーキットへと続く日本ラウンド2連戦のあと、アデレード市街地・オーストラリアGPで全日程を終了しました。

そのなかで、「ノキア・ティレル・ヤマハ」チームはT1でのバシフィックGPを片山右京、ミカ・サロがそろって完走。

さらに鈴鹿では、サロが6位で今季2度目のポイントゲット。最終戦のオーストラリアでも、スリッピーな路面を慎重に走り抜いて5位入賞し、トータル5ポイントを挙げました。右京は鈴鹿で左手親指をいた

め、鈴鹿、アデレードとも完走を逃してしまいました。チームとしてはコンストラクターズランキングで9位で終了。

ヤマハの木村隆昭F1プロジェクトリ

ダーは、「1年間一緒に仕事をしたティレルチームに感謝したい。今季のレースは終わったが、今後は(すでに発表している)新しいエンジン(OX11A)の開発に全力を尽くしたい」と締めくくりました。



ひとりてチームの全ポイントを稼ぎ出したサロの活躍が光った

WGP-RR	
(500ccクラス)	
1位	M・ドゥーハン (ホンダ)
2位	ロ・ビーティー (スズキ)
3位	ル・カダローラ (マルネロ ヤマハ チーム ロバツ)
9位	阿部 典史 (マルネロ ヤマハ チーム ロバツ)
11位	N・ホジソン (ヤマハ)
12位	J・ホルバ (ROCヤマハ)
14位	B・ガルスシア (ROCヤマハ)
(250ccクラス)	
1位	M・ピアジ (アフリリア)
2位	原田哲也 (ヤマハ マルネロ チーム レイニ)
3位	ロ・ウオールドマン (ホンダ)

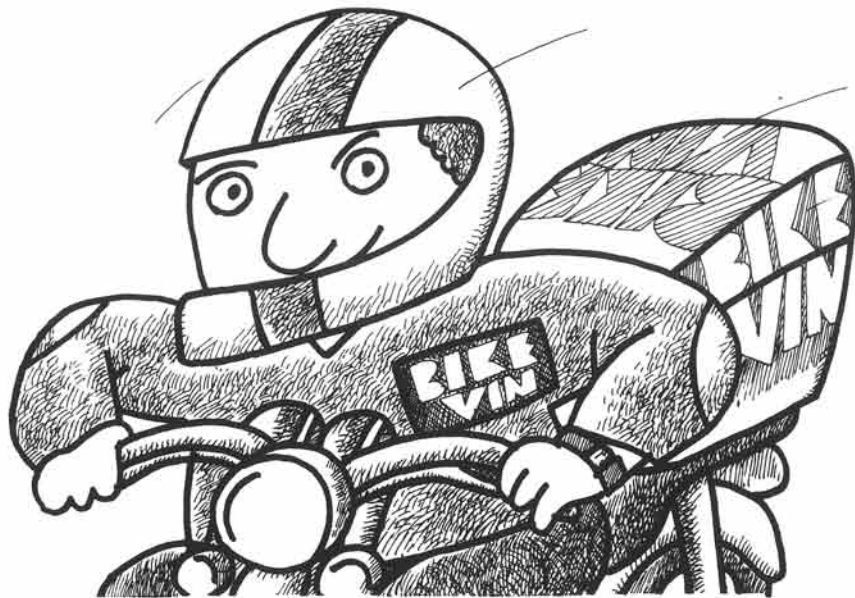
8位	K・ロバーツJr (ヤマハ マルネロ チーム レイニ)
(125ccクラス)	
1位	青木 治親 (ホンダ)
2位	坂田 和人 (アフリリア)
3位	E・アルツァモラ (ホンダ)
14位	加藤 義昌 (チーム アスパー セバサ ヤマハ)
18位	J・マルティネス (チーム アスパー セバサ ヤマハ)
WGP-MX	
(250ccクラス)	
1位	S・エパーツ (カワサキ)
2位	M・ベルブツ (スズキ)
3位	T・ポーランド (カワサキ)

7位	A・バルトリーニ (チェスターフィールド ヤマハ チーム リナルティ)
8位	B・ムーア (チェスターフィールド ヤマハ チーム リナルティ)
12位	Y・テマリア (チェスターフィールド ヤマハ チーム リナルティ)
14位	F・ホレイ (ヤマハ)
(125ccクラス)	
1位	A・プザール (ホンダ)
2位	A・キオーティ (チェスターフィールド ヤマハ チーム リナルティ)
3位	S・トルデリ (カワサキ)

8位	ロ・フェデリチ (ヤマハ)
11位	P・マリン (ヤマハ)
12位	E・カメレンコ (ヤマハ)
15位	P・デュバスクワイヤ (ヤマハ)
全日本FFR	
(スーパーバイククラス)	
1位	青木 拓磨 (ホンダ)
2位	武石 伸也 (ホンダ)
3位	藤原 克昭 (カワサキ)
4位	吉川和多留 (YRTR)
5位	藤原 惟彦 (YRTR)
10位	芳賀 紀行 (ヤマハ)
12位	高橋 勝義 (ヤマハ)
13位	長谷川克憲 (ヤマハ)

(250ccクラス)	
1位	沼田 憲保 (スズキ)
2位	宇川 徹 (ホンダ)
3位	難波 恭司 (YRTR)
6位	芳賀 健輔 (YRTR)
8位	喜久川 光 (ヤマハ)
8位	椿 洋 (ヤマハ)
10位	前田 誠司 (ヤマハ)
12位	小倉 直人 (ヤマハ)
15位	松戸 直樹 (ヤマハ)
(125ccクラス)	
1位	宇井 一 (ヤマハ)
2位	東 雅雄 (ホンダ)
3位	茨木 繁 (ヤマハ)
8位	上江州洲克次 (ヤマハ)
12位	中野 真矢 (ヤマハ)

全日本MX	
1位	J・マタセウィッチ (カワサキ)
2位	大河原功次 (YRTM)
3位	榎本 正則 (カワサキ)
6位	鈴木 健二 (チームYZ)
8位	増田 智義 (YRTM)
12位	光安 鉄美 (YRTM)
15位	村橋健太郎 (ヤマハ)
全日本TR	
1位	藤波 貴久 (ベータ)
2位	成田 匠 (ベータ)
3位	田中 善弘 (ベータ)
4位	P・クトウリエ (ヤマハ)



今月のテーマ

ライダーの常識、非常識

ある作家が雑誌に寄稿したコラムに、こんな記述がありました。

「常識と非常識の境界線は、いつの時代も世代によって変わるもの。だから若い連中の行動に腹を立て。最近の若いもんは……」なんて目くじらを立てるオジサンたちの言動こそ、言ってみれば非常識極まりないのである。きっと我々の先祖にあたる原始人たちは、こう言っているに違いない。まったく最近の若いもんときたら、火も起こせないのか」と

正確には覚えていませんが、確かこんな内容だったと思います。

常識と非常識——曖昧な分け方ではありますが、「世代の違い」の一言で片付けられない非常識も、この世の中には山ほど存在しています。そこで今回は、あえて「最近の若いもん（ライダー）の非常識」について考えてみました。

「最近驚くのは、グローブをつけていないライダーがとても多いことです。特にプロと言われるバイク便のライダーに多いようです。以前の彼らのライダーینگは、一般ライダーの見本であったはずなんです」（ベテランライダーSさん）

「サンダル履きのライダーですね。この傾向は街乗り志向のライダーに多いようですが、彼らのモラルはスクーターのオバサン以下です」（バイクジャーナリストKさん）

街の中に出てみれば、非常識ライダーの姿が嫌というほど目につきます。グローブにしろサンダルにしろ、本人たちはまったく気にしている様子もありません。これでは偏屈なおジサンでなくても、「最近の若いもんは！」と文句のひとつも言いたくなるのが心情でしょう。

「近ごろのライダーは、バイク仲間とかツーリングクラブとか、そういった小さなグループに属さない人が多いんです。以前はそんなグループが無数にあって、その集団の中には先輩後輩のような構図が自然にできていました。でも現在の多数派である無所属のライダーたちは、情報やら何やらを共有できる仲間がいないから、常識と言われる情報さえも教えてもらえない機会がなくなっているんです。グローブをつけないライダーにしても、誰も注意してくれる人がいないんじゃないですかね」（東京都A店）

教習所では決して教えてくれないライダーとしての常識は、例えるなら「学校で習うことのできない子供の躾」のようなもの。たとえ免許証を持っているとしても、躾を受けていると判断するのは誤りです。教育は学校で、躾は家庭でという子育てを、正しいライダーの育成に当てはめるとしたら、家庭の役割を果たす存在が必要になってくるのはあらためて言うまでもありません。

ハロゲンヘッドライト採用や新色追加で商品力アップ!

NEW『スーパージョグZR』登場

新フィーチャーと主なセールスポイント

NEW
ハロゲンヘッドライトの採用
ヘッドライトは、従来の30W/30Wキ
セノンバルブ(イエロービーム)から35
W/36.5Wハロゲンバルブ(ホワイト
ビーム)に変更しました。

NEW
ホワイトフェイスランプ
フロントビューを引き締めるフェイス
ランプも、従来のイエローからホワイト
に変更し、シックな外観を強調させ
ました。

NEW
ニューパターン
タイヤの採用
ワイドチューブレスタイ
ヤに、優れたグリップ力
を発揮するニューパター
ンを採用しました。

NEW
ブレンボ製フロントブレーキキャリパー
フロントブレーキには、ブレンボ製対向ピストンキャリ
パー装備のディスクブレーキ。優れた動力性能に見合う
強力なストッピングパワーを発揮します。

7.2馬力のハイパワーエンジン

力強い走りと好レスポンスを生み出す7.2馬力エンジ
ンを搭載。冷却用ファンには赤い「カラードファン」
を採用。スポーツ感覚を強調した迫力あるマフラー
との相乗効果で、右側リアビューの精悍なイメージ
を打ち出しています。

NEW
盗難対策を強化したメインキー
メインスイッチ内部のタンブラーの強度を向上。あわ
せて、ハンドルロック時にはロックプレートが働いて、
ハサミ等によるメインスイッチ破壊に対する抵抗力を
大幅に向上させました。

NEW
コンビニフックの採用
使い勝手の良いコンビニフックを採用して利便性を高めました。

コンペティション
シルバー(シルバー)

NEW
リザーブタンク付きのリアサスペンション
リアサスペンションには、リザーブタンク付きのガス封入
式を採用。スポーツバイク風の外観をもたせながら性能の
安定化を図り、優れた走行性と乗り心地を実現しています。

ブラック2(ブラック)



ベリィーダークブルー
メタリック3(グリーン)



軽快な走りと本格装備がヤングユーザー
の人気を集め、スクーター商戦をリード
してきた『スーパージョグZR』が、'96
モデルで一層商品力を高めて登場します。
ジョグシリーズ初のハロゲンヘッドライ
トの採用、便利なコンビニフックの装着、
そしてニューパターンタイヤを装備した
他、カラーリングにはトレンドをリード
するシルバー系を追加。
"ハイグレードスポーツスクーター"と呼
ぶにふさわしい内容で、'96商戦トップパ
ッターのデビューです。

12月1日新発売

メーカー希望小売価格

169,000円

※北海道、沖縄および一部地域を除く。価格には保険料、
税金(含む消費税)、登録にともなう諸費用は含まれません。

カラー：コンペティションシルバー(シルバー)
ブラック2(ブラック)
ディーブバイオレットメタリック6(パープル)
ベリィーダークブルーメタリック3(グリーン)
ダークグレイッシュレッドカクテル3(レッド)

ディーブバイオレット
メタリック6(パープル)



ダークグレイッシュ
レッドカクテル3(レッド)



“新しい浪漫の道へ”を テーマにブース演出

第31回東京モーターショー



連日超満員のヤマハブース



メインステージのもうひとつのハイライトがXJRシリーズの各モデル。NK-4レースをイメージさせる「XJR400R」(参考出品)には、ヤングユーザーの燃い視線が集中していた。

会期中152万人を超える入場者で賑わいを見せた第31回東京モーターショー。「感じる夢。感じるくるま。」をテーマに、10月27日から11月8日の13日間、千葉県専張の日本コンベンションセンターで開催された今回のショー

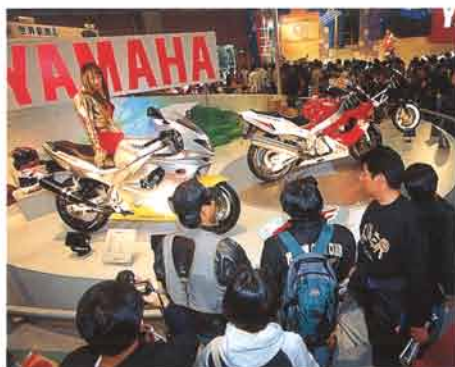
1には、世界14カ国から354社、6政府、1団体が参加。二輪部門では国内4メーカーと海外から4カ国8社が参加して、次代のモーターゼーションを提唱しました。

各ブースには、詰めかけた152万3000人の来場者の熱い視線が注がれましたが、そうしたなか、ヤマハは、「新しい浪漫の道へ」をテーマにブースを構成。21世紀を視野に入れた魅力的な商品の提供と、モーターサイクルのもつ社会性、技術的可能性、利便性等幅広いテーマにチャレンジするヤマハのフィロソフィーを表現したもので、参考出品、市販モデル、レーサーを含めた49台の展示車それぞれの魅力に、来場者は大きな期待を寄せていました。

400ccの新しいアメリカンを提唱する、「ドラッグスター」、NK-4レースをイメージさせるXJRシリーズのニューフェイス、「XJR400R II」、新スーパーバイクの「YZF」シリーズ、そしてPASの新しい形を提唱する「パス スイング」から「パス エアロスポーツ」など、多岐にわたるカテゴリーの充実ぶりに高い評価が集まるなかで、プレス関係者から特に注目されたのが「ドラッグスター」。「まだまだ需要が伸びる可能性を持っている国内のアメリカン市場で、確実にシェアを拡大するモデルとして期待したい」といった声が聞かれました。



「YB-1」(参考出品)は、忘れていた鉄の感触を漂わすユニークな50cc。発売を待つ10代後半〜20代前半の来場者の声が多かった



'96年のヨーロッパ向けモデルとして出展した「YZF1000R」(サンダーエース)「YZF600R(サンダーキャット)」には、走りのヤマハに期待するエンスージャストからの人気が集



スポーツ感たがクラシックな外観でデビューした「ルネッサ」(参考出品)は、メインステージの対向側ステージで静かな人気を集めた



ヤマハブースのステージには、400ccの新しいアメリカン「ドラッグスター」(参考出品)を中心に、向かって左側に米国で企画された'86北米向けニューモデル1300ccの「ロイヤルスター」と「ロイヤルスター・ツアークラシック」を展示。新しい世代の「アメリカン」を強力に主張した



軽二輪市場の新しい商品「Majesty」をベースにナビゲーションシステムを装備した参考出品モデルにも人気集中

The 31st Tokyo Motor Show



さらに広がるPAS技術の可能性を提唱した「パス」コーナー



「YZR500」の'74年モデル、'80年モデル、'88年モデル、'95年モデルを始め、7台の歴史に残るヤマハファクトリーマシンには、幅広い年齢層のモータースポーツファンが人垣をつつた

こだわりのスポーツ仕様に
流行のカラーリングをプラスして登場。
ニュー「ZR」はストリートで映える！

憧れのスタイルを、磨きぬいた。

ZR SUPER JUG

パワフル&ライトウェイト。NEWスーパージョグZR。

走りのスタイルをさらに磨きぬいたNEWスーパージョグZR。シックなニューカラーに身を包んだライトウェイトボディには、最高出力7.2馬力のハイパワーエンジンを搭載。この卓越したパワフルさと軽さの追求が、ZRならではの俊敏な運動性能を生んだ。高性能サス、ブレンボブレーキ、スポーツサイレンサーなど、全身をこだわりのスポーツ仕様で固めて、いまストリートをクールに疾走する。

¥169,000

コスミックサーフ製スノーボードジャケットプレゼント!
おれなくストリート・ポーターになれる!
いまNEWスーパージョグZRをキャンペーン期間限定でお買い上げの方に、スノーボード専用「ヤマハオリジナル・コスミックサーフ製スノーボードジャケット」をプレゼント!

読んで、正しく、安全運転。

バイクでひろがるいい仲間

バイクはいつも、笑ってる

YAMAHA

ヤマハ発動機株式会社

この広告は、11月下旬以降発売の二輪専門誌「マンガ雑誌」などに各誌に掲載されます。

グッとシブ目にかまえたシルバー、そしてブラック、グリーン、レッド……。うわさのNEWスーパージョグZRは、パワフル&ライトウェイトボディに高性能サス、ブレンボブレーキなど、こだわりのスポーツ仕様に磨きをかけ、よりシックなスタイルで帰ってきた。

'96モデルのスーパージョグZRは、定評ある俊敏でパワフルな走りを、ストリートで映えるニューカラーに包み込んだスタイルがなよりのアピールポイント。そこで、現在展開中の雑誌広告では、ニューZRが持つシックな雰囲気、ただそこ

にあるだけでお客さまの目を引きつける強い存在感に着目しました。

ストリートに、商品のありさまを見せる。それがお客さまのイメージをかき立て、店頭への誘引効果を高めます。

また、10代の若者たちに大人気の『コスミックサーフ』製オリジナルスノーボードジャケットがもらえる、プレミアムキャンペーンも告知。商品性と合わせた相乗効果で来店促進をはかりました。店頭活動との連動で、ぜひ多くの成果を獲ってください。